

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:57.

地域との連携を通し実現したロービジョンの一人暮らし高齢者の退院支援

川合 二美子, 泉 茉季, 松浦 詩歩, 吉田 琴音

地域との連携を通し実現したロービジョンの一人暮らし高齢者の退院支援

旭川医科大学病院 8階東ナースステーション ○川合二美子 泉茉季 松浦詩歩 吉田琴音

【目的】

我が国は超高齢社会となり、家族環境の変化により一人暮らし高齢者が増加している。疾患に罹患しても、家族や知人からのサポートを得る事が出来ない人がいる状況である。

ロービジョンとなった一人暮らし高齢者A氏は入院加療が必要となったが、身近に頼れる人がいず元の生活に戻るには困難と思われた。しかし自宅へ帰りたいというA氏の意味を尊重し、入院早期から退院を見据えた介入を行った事で自宅退院が出来た。この退院に結びついた看護の要因を明らかにする。

【方法】

- 1)研究デザイン 事例研究(後ろ向き)
- 2)研究期間 2018年12月～2019年5月
- 3)データ収集・分析方法

入院までの経過、治療経過、退院後の経過、疾患や治療に対する受け止め、看護の実際を対象患者の診療記録から抽出した。得られた情報をもとに宇都宮による退院支援の3つのプロセスを用いて分析し、看護の実際を含めて検討した。

本研究は研究者の所属する倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

第1段階では、安全な入院生活を目標としながらA氏の日常生活をアセスメントした。

第2段階では、視力の回復は望めなくても、退院して自宅で生活したいという思いを支援するためロービジョンでも点眼や内服等の医療処置、買い物や自炊、入浴等生活行動が実際に自立できるのか検証した。感染を起こした誘因を振り返り、手洗いの必要性を理解してもらい感染予防行動の習得を目指した。

第3段階では、A氏、主治医・地域包括支援センターの担当者・振興局・地域医療連携室看護師、MSW、担当看護師とで退院前カンファレンスを行い、通院支援、室内環境、自宅周囲の環境、買い物、服薬管理方法、点眼手技確認を行った。

【考察】

A氏は入院当初、ロービジョンとなったあとも人に頼らずに生活できるという自負があった。その自立心を尊重した事、退院支援を段階的に介入を行った事で看護師との信頼関係ができ、A氏は人の助けを得ながら自分で生活しようという気持ちに変化していた。